

## コンピテンシーシートにみる実習生の学修の現状と今後の展望

## —相談援助実習及び相談援助演習をふまえて—

○ 関西福祉科学大学 橋本 有理子 (4381)

種村 理太郎 (関西福祉科学大学・7198)、小口 将典 (関西福祉科学大学・5253)

柿木 志津江 (関西福祉科学大学・4238)、清原 舞 (関西福祉科学大学・5924)

中島 裕 (関西福祉科学大学・2117)、得津 慎子 (関西福祉科学大学・2035)

キーワード：コンピテンシーシート、相談援助実習、相談援助演習

## 1. 研究目的

今日、コンピテンシー（能力評価の概念）は、社会福祉等の対人サービス分野において、教育効果の測定や専門職の職業能力の指標として用いられている。また、養成課程である大学等においても導入が試みられ、各実習指導段階における実習生の自己コンピテンシー・アセスメントの現状や効果、課題の抽出（池田，2005）、コンピテンシーシート評価項目の検討（藤田ら，2008）の研究などが行われている。

一方で、相談援助実習及び相談援助演習のシラバスについて、実習生によるコンピテンシーシートの回答結果をふまえ、検討している研究はほとんどない。

したがって、本研究は、各実習指導段階における実習生の自己評価と実習指導者による当該実習生の相談援助実習評価を踏まえ、相談援助実習と相談援助演習内容の整合性及び実習生の自己評価尺度（コンピテンシーシート）の検証とその効果的な活用方法の開発を目的としている。

本報告では、相談援助実習及び相談援助演習を全く履修していない実習指導Ⅰ及び一年間履修してきている実習指導Ⅲの実習生を対象に、コンピテンシーシートの回答をふまえ、相談援助実習及び相談援助演習の効果や今後の展望について検討した。

## 2. 研究の視点および方法

調査方法は、大阪府内におけるA大学社会福祉学科で実習指導Ⅰを履修している2年生（160名）及び実習指導Ⅲを履修している3年生（161名）を対象に、2015年4月に初回の授業で集合調査法を実施した（欠席学生については、後日個別に対応した）。

本研究協力への同意が得られた2年生は115名、3年生は129名であった。なお、3年生は演習Ⅰ・Ⅱの単位未取得4名を除く125名を分析対象とした。有効回答率は、2年生が71.9%、3年生が77.6%であった。

A大学社会福祉学科での相談援助実習及び相談援助演習の履修の流れは、以下のとおりである。

(2年生春) 実習指導Ⅰ・演習Ⅰ、(2年生秋) 実習指導Ⅱ・演習Ⅱ

(3年生春) 実習指導Ⅲ、(3年生夏) 現場実習、(3年生秋) 実習指導Ⅳ・演習Ⅲ

本研究では、藤田ら（2008）、日本社会福祉士養成校協会（2009）、安井ら（2011）の先行研究をもとに、「基本的学習能力」「社会的能力」「価値」「知識」「技能」「実践的能力」の6カテゴリーから構成されている77項目のコンピテンシーシートを作成し用いた。

回答形式は、「まったくできていない（1点）」から「とてもよくできている（5点）」までの5件法で回答を求めた。

分析に際して、実習生としての専門性を養う過程において、その基盤となる「基本的学習能力」及び「社会的能力」それぞれの高低群による4類型を「能力類型」として設定した。

### 3. 倫理的配慮

本研究実施にあたり、実習生に、倫理的配慮として、「本研究協力への参加は任意であり、不参加により実習生が不利益になることはない」「データは研究目的以外で使用せず、個々の回答は暗号化し、個人が特定されることはない」旨を口頭及び書面にて説明し、同意を得られた実習生に限り、研究対象とした。なお、本研究は日本社会福祉学会倫理規定を厳守し、関西福祉科学大学研究倫理委員会の承認を得た（14-40）。

### 4. 研究結果

実習指導Ⅰ・Ⅲの実習生間におけるコンピテンシーの現状をt検定で分析したところ、社会的能力を除く5カテゴリーで有意差が認められた（基本的学習能力： $t(229) = -3.198$ ,  $p < .01$ 、価値： $t(212.721) = -3.165$ ,  $p < .01$ 、知識： $t(225) = -6.262$ ,  $p < .001$ 、技能： $t(213.071) = -6.794$ ,  $p < .001$ 、実践的能力： $t(185.378) = -4.513$ ,  $p < .001$ ）。

実習指導Ⅰ・Ⅲの実習生ごとに、能力類型を独立変数、価値、知識、技能、実践的能力を従属変数とする一元配置分散分析を行った。その結果、能力類型間における価値、知識、技能、実践的能力に有意差が認められた（【指導Ⅰ】価値： $F(3,106) = 14.222$ ,  $p < .001$ 、知識： $F(3,99) = 6.917$ ,  $p < .001$ 、技能： $F(3,103) = 6.985$ ,  $p < .001$ 、実践的能力： $F(3,96) = 7.661$ ,  $p < .001$ ／【指導Ⅲ】価値： $F(3,113) = 6.935$ ,  $p < .001$ 、知識： $F(3,113) = 3.922$ ,  $p < .01$ 、技能： $F(3,112) = 10.332$ ,  $p < .001$ 、実践的能力： $F(3,110) = 9.132$ ,  $p < .001$ ）。

### 5. 考察

実習指導Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱを既に履修している実習指導Ⅲの実習生のほうが相談援助実習・演習の事前学習に含まれている基本的学習能力、価値、知識、技能、実践的能力の程度が高いことから、事前学習内容は一定の効果をもたらすものと推察できる。

実習指導Ⅰ・Ⅲともに、基本的学習能力が同じように低群もしくは高群であっても、社会的能力の高低の程度により、価値、技能、実践的能力の程度に差が認められるため、実習生の社会性は専門性を高めることに寄与するものと考察できる。

実習指導Ⅰ・Ⅲの実習生間で社会的能力のみ有意差が認められなかったことから、社会的能力はこれまでの人生で培ってきたものが大きく影響する能力と推察される。したがって、社会性を高めるプログラムを検討することがより一層必要になると示唆される。

### 引用・参考文献

- ・藤田久美他「社会福祉教育におけるコンピテンシー評価項目の検討」山口県立大学社会福祉学部紀要 14、65-78、2008
- ・池田雅子「社会福祉実習教育における学生の自己コンピテンス・アセスメントの活用について—コンピテンス評価結果の分析を通して—」北星学園大学社会福祉学部北星論集 42、49-65、2005
- ・社団法人日本社会福祉士養成校協会編「相談援助実習指導・現場実習教員テキスト」中央法規出版、256-260、2009
- ・安井理夫他「児童福祉分野のソーシャルワーカーに求められる専門性と人間性：社養協版実習指導ガイドラインの批判的検討」同朋大学論叢 95、47-64、2011